

## 会 議 録

会 議 名		令和 7 年度 第 2 回 川西市社会教育委員の会		
事務局		市民環境部 生涯学習課（電話 072－740－1244）		
開 催 日 時		令和 7 年 12 月 25 日(木)15 時 00 分～16 時 48 分		
開 催 場 所		アステ川西 5階 ルーム500		
出席者	委 員	野崎議長、常行副議長、川野委員、三善委員、杉村委員		
	そ の 他	テーマに係る担当所管 三石教育保育課長、山守教育保育課主査		
	事 務 局	岡本市民環境部長 寺田市民環境部副部長(環境政策・生涯学習・公民館担当) 木田生涯学習課長、山田生涯学習課長補佐、大塚主任、鷺尾主事		
傍聴の可否		可	傍 聴 者 数	0名
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由				
会 議 次 第		別紙のとおり		
会 議 結 果		別紙のとおり		

# 審議経過

## 1. 開 会

## 2. 市民環境部長あいさつ

- ・年末のたいへん忙しい時期に開催させていただいたが、出席いただき感謝する。
- ・12月に組織改正の議案が提出された。市民環境部が生涯学習部門を受け持っていたが、非常に範囲が広いことから4月から市民環境部と生涯学習部に分かれる。生涯学習課が生涯学習政策課となり、生涯学習課に属していた文化財部門が観光・文化財課という組織になるほか、生涯学習部に市民環境部の方から文化・スポーツ課が移ることになった。そのほか、中央図書館と公民館という組織になる。

また、生涯学習課はアステ川西に執務室を置いているが、市役所本庁に移ることになる。

## 3. 報告

令和7年度第1回社会教育委員の会以降に委員が出席された各会議について、会議概要等について報告がなされた。

報告がなされた会議

- ・「第67回全国社会教育研究大会」(岩手大会)(令和7年10月29日～31日開催)
- ・「令和7年度兵庫県社会教育研究大会」(令和7年11月26日開催)

## 4. 議題

学校運営協議会制度への社会教育の関わり方

令和7年度第1回の同会議までに協議した内容に基づき、前回の審議報告(案)を修正し、その(案)について協議した。

(事務局)9月の第1回の会議でお示しした審議報告(案)について、協議していただいたが、その意見などを参考に改めて審議報告(案)を作成した。

この後、担当から説明をするが、改めてご意見等をいただきたい。

(事務局)前回の会議内容を踏まえ、改めて審議報告(案)を作成した。

柱立てについて、Ⅰの「はじめに」では、前回は、現在の地域社会等の状況からコミュニティ・スクールの実施に至るまでを記載していたが、今回、地域社会等の状況や学校運営協議会制度に至るまでの経緯のほか、報告書の位置づけとして、教育委員会から研究テーマとして挙げられたことを新たに記載している。

Ⅱでは、前回は「本市のコミュニティ・スクールの現状と課題」としていたが、本案では、「本市のコミュニティ・スクールについて」として、1「実施の経緯」と2「成果と課題」として修正している。

Ⅲは、社会教育の関わり方であるが、前回は5項目の内容を記載していたが、部活動の地域展開については、項目からは削除している。ただ、地域学校協働活動の中で円滑な部活動の実施に向けた調整機能を果たすことが期待される旨を記載している。

前回の会議において、Winという言葉が市場的な価値や勝ち負けをイメージすることから、別

の言い方にするほうがいいということで、地域と学校が双方向の関係性になる「連携・協働」というように変えている。

Ⅲの社会教育の関わり方の詳細だが、1の『「めざす子ども像」を明らかにする』では、学校のめざす子ども像を各地域でどう組み直すか、なぜめざす子ども像を明確にしなければいけないかを記述している。

2の「地域学校協働活動を推進する」では、協働活動の内容のほか、どのように地域学校協働活動を進めていくかを記述し内容を充実させた。

また、項目としては削除したが、部活動の地域展開について、指導していただく団体と教員との連携について触れている。

3の「公民館をコミュニティ・スクールの活動拠点にする」では、公民館長が学校運営協議会の委員でもあることから、その関わりや公民館が保有する地域の人材や団体の情報を活かしながら進めること、また、公民館と推進員とが連携するための環境整備について記述している。

4の「社会教育人材の育成とネットワーク化を進める」では、地域学校協働活動推進員と支援員を対象とした研修会が、今後ますます必要になることや、社会教育関係団体との積極的な関わりや連携が必要であることから、社会教育主事等の役割の重要性を記述している。

Ⅳの「おわりに」では、前回、「学校長の気持ち次第」という文言については、「コミュニティ・スクールが、「地域とともにある学校」となるためには、何よりも地域住民と学校の教職員がお互いを理解し、協働することが必要です。」とした。

前回の会議において、東谷中学校区の研修会の話があり、その内容を委員がAIに分析させた資料を配付しているので、この資料も参考に協議していただきたい。

(議長) 東谷中学校区での研修会の内容を少し聞かせていただきたい。

(委員) 研修会の内容だが、牧の台みどりこども園長、東谷小学校長、北陵小学校長、牧の台小学校長と東谷中学校長の5名で各園校の掲げている教育目標について、なぜそのような教育目標にしているのかについて話をさせていただいた。それぞれの学齢に応じて目指しているものは違うけれども、市が目指している子どもの主体性は引き出していこう、伸ばしていこうというところはどの園校も同じで、それを共有していくためには、1回限りの話をして交流するだけでなく、地域として一つの目標を設定して、それをそれぞれのステージに応じて生活指導面ではどのような取り組みが必要かとか、進路に向けてどのような指導が必要かなど、今後も交流していく必要があるということになった。

第1回目の中では、共有することができたと思っているが、これも学校だけで共有するのではなく、それぞれの学校が運営協議会や、地域とも共有していかないといけないし、家庭とも共有していかないといけない部分なので、どこの学校運営協議会についても単独ではなく、共有できたらいいねという話を校長会でもさせていただいた。

(議長) 今、話があったように今回の審議報告のテーマが子どもだと思う。めざす子ども像を明らかにするということで、資料の中の図であるが、平成27年当時のもので、草創期の中教審の答申だが、これが基本だと思う。学校、家庭、地域という図はよく見るが、中教審のこの図は「子供」と書いている。これが大事で、子どもの社会教育である。社会教育は広いので、「子供」を

入れていなければわからない。子どもの社会教育なので社会教育を地域教育と読み替えればいい。そこに公民館活動を含むとあり、まさに我々がめざすところで、要は子どもの社会教育に公民館もどんどん関わっている。そういうところに地域協働活動を位置付けて、まちづくりや地域活動を伸ばしていこうということ。全国では、学校運営協議会を年1回実施して校長が何か言って終わりのような会議であったり、学校運営協議会が中学校区に一つだけのようなところが多く、それが平均になっている。

本市は、教育長のリーダーシップのもと、コミュニティ・スクールをどんどん進めている。そこで、教育長からテーマをいただいての我々の回答だと思う。学校教育がめざすところは当然あって、コミュニティ・スクールとしてめざすところは何なのかを協議しないといけない。

ただ、これだと決めてしまうのはいけない。今回、熟議という言葉を入れたが、学校は夢や希望をチャレンジする場で、地域はいろんな人と関わり、豊かに育ってほしいという軸足が違う。そのような違いを擦り合わせる機会を常に持ち続ける。その中で合意形成して次に進むということが教育委員会への答えかと思っている。そこについて、委員の意見を聴きたい。

(委員) 3ページの「めざす子ども像」を明らかにするの最後の段落で、「熟議を行う上での留意点としては、「めざす子ども像」を明確にして明文化・固定化することが目的ではありません。あくまで地域住民の視点から学校の目指す子ども像との異同を考え学校側と協議を行い、そして合意形成を図ろうとすることが主眼とされなければなりません。」という文言が入ったことで、わかりやすくなった。

(委員) 以前の学校評議員制度は、学校がこうしたいということを承認するだけだったが、地域・家庭と一緒に学校を運営していくというのが、学校運営協議会、コミュニティ・スクールなので、学校教育目標であったりとか、重点取組などを一定は示すが、新年度を迎える前の学校運営協議会でこういう力をつけていきたいので、このような取組をしたいので意見を聴き、新たな学校教育目標及び重点取組を決めるようにしているので、熟議を行う上での留意点は、学校運営協議会を存続させる上で大切な部分と思っている。

(委員) 委員もおっしゃったように、最後の段落で明確にして明文化・固定化することが目的ではなく、合意形成していくということは納得はしているが、社会教育の役割の一つに第3の領域、サードプレイスと言われ、学校での固定化された人間関係や自立していくという与えられた課題をこなしていくタスク達成型みたいなところからの少しガス抜きできる場所、違う自分で居られたり、大人が考えるこうありなさいというところから逃れられる居場所であるということも社会教育の大事な機能なので、そのことはわかっているというところがもう少し見れば良いと思う。社会教育までがめざすものを追求していくと言うと子どもを苦しめるようなことはどうなのか。ただ、中学校が子どもたちを育てて行きたいと思っていることを社会教育の立場でも受け止めて、同じ方向に向いていくのは大事な事なのでどうしたらいいか。

社会教育の関わり方としてめざす子ども像を明らかにするのは、何のためなのかというところだろうか。コミュニティ・スクールへの社会教育の関わり方として、めざす像を明らかにするとは何か。

(議長) 学校が示すものだけではないというところだと思う。

社会教育は学校教育と違って、めざす期間が長い。また、寄り道も OK だし、立ち止まってもよい。

(委員) 学校運営協議会が地域としてのめざす子ども像を明らかにしていく必要があるというのはわかる。その地域としてのめざす子ども像を作っていくに当たって社会教育が考える子どもの姿というものを伝えていくという情報提供も社会教育の関わりとしてはあるのかなと思うが、まだよくわからない。

(議長) 学校園ごとにめざす子ども像がある。それは当たり前のことで、当然地域性があるって練り上げてきたものなので、その上で、それにはまらない子どもやゆっくりな子どもも居るということだと思う。そこを社会教育がフォローアップするという感じだと思う。

(委員) 今は、学校でも多様性を大事にしている。何もかも出来て進んでいる子どももゆっくりな子どもも地域では OK であってほしい。

(委員) 話は変わるが、今、フランスでは、日本と同じく自殺者が多いとか出生率が少ないということで見直しを図って、支援のあり方や教育のあり方を変えた結果、本人主体の子育て支援や教育が進んでいる。

かつてのフランスの子育て支援は、正しくこうあるべきという親像があって、そこに何らかの生活の苦しさとか、DV を受けるとか、そのお母さん自身の育ちが悪かったとかで、あるべき親像になれていないので、その欠損を支えるということであったが、それでは結局、虐待もなくならず生きずらさもなくならないので見直そうということになり、今はあるべき親の理想像というのは、教育者側や支援者側が持っているものではないと定義されて、ありたい親像そのものも本人が持つもので、支援者はその本人がほしい親像、本人が持っている親像に達成できるようにサポートするというあり方に変わった。それに近くて社会教育で子どもがどうしてほしいか。子どもが持っているものを引き出していくという大人側に求められている姿勢みたいな豊かな環境をどう社会教育側が保障してあげられるか。その子どもがどうありたいかということだと思う。

(議長) どうありたいかが、わかっている子どもとわかっていない子どもがいる。

学校というのは組織なので、外れる子どもがいて当たり前で、全部入る組織の方はないということもあって、それでも教員は全員をみないといけないという部分もある。しかし、ある企業では欠損が出てそれが当たり前で、欠損が 100% ゼロというのはおかしいという見方がある。

それを受け取るのが社会教育だと思う。

(委員) 「めざす教育環境の醸成を明らかにする」だとしつくりくる。

学校がめざす子ども像を達成するための教育環境をどう整備していくか。

(議長) 子ども像の先に臨まれる教育環境の創造が実現できる。でも意味が違う。

(委員) 自分がどうありたいか。どう育って行きたいかというものを持っていて、それを実現させるお手伝いを社会教育者がやっている。でも、学校教育の場合は、自立した大人になっていくために、今学ぶべきことがあって、それを踏まえて教師がめざす子ども像に育てたいというのはよいと思うが、それもどの子どもも外れる子も、外れない子も自分の中にこうありたいという思いは持っていて、それを子どもの最善の利益として保障する使命というものは社会教育にもあって、学校やその地域の方々がこういう子どもに育ってほしいと思ったことを社会教育の場で最大限に保障してあげようとする教育環境を作っていくことが社会教育の関わり方かなと思ったので、「明らかにしためざす子ども像を実現させる教育環境の醸成に寄与します」というのが私はしっくりくる。

(議長) 2を立てるか。

(委員) 2を立てても、1の「めざす子ども像を明らかにする」というのが、表に出ると違和感はとれない。でも2があればよいか。熟議して固定化することが目的でもなく、学校が謳っている子ども像と地域が考えるものと社会教育関係者が考えるものを熟議しながら、この地域は一定、こういう子どもに育てたいんだという理解があった上で、それを環境醸成していく。

(議長) 地域学校協働活動の中に入るか。具体的にはどんな場面でこういった関わりを誰がするのか。

(委員) 川西市は、強みで公民館があって、公民館にいろいろな講座に参加する子どももそうだし、公民館にたむろするのもよい。

(議長) ここに出ているめざす子ども像から外れることはないと思うけれども、ジャストフィットはしない。

(委員) 社会教育の立場として、めざす子ども像を打ち立ててしまうことの抵抗みたいなものがある。

(議長) 必ずしも全部を救えるものではなく、全部カバーできるものでもないが、社会教育として幅広く寄り添っていきえるような教育環境を作っていくというような感じか。

(委員) 社会教育の関わりなので、コミュニティ・スクールで打ち出しためざす子ども像がわかれば、社会教育ではそういうふう子どもが育ったらいいなという中で、それぞれの立場からできる環境を作っていくということになる。

コミュニティ・スクールは、それぞれの放課後活動だったり、まちづくりだったり、地域活動だったり、必ずしも学校教育の中でやらないといけないというわけではない。

(議長) コミュニティ・スクール以外の活動で拾うというものもある。

これは、あくまでも学校運営協議会のシステムの中での話になるので、そこでは当然捉えきれ

ないという前提に立てば、そのところは各学校でもいいと思う。

そういったバックアップは必要ですねというのは、補論的に入れることはできる。全部がハッピーではないという感じ。

(委員) それもあるが、私が言っているのは、こぼれた子どもを救うとかではなく、こぼれない子どももこぼれる子どもも自分の中にこうありたいというものを持っていて、それに社会教育側がその子どもに寄り添って、その子どもの育ちたいあり方に育っていくように教育環境を整えていくということだと思っている。

(議長) そうなるとコミュニティ・スクールは関係ないという話になる。

(委員) なおのこと、めざす子ども像をコミュニティ・スクールの中で学校教育を中心にしながら、こういう子どもに育てたいと大人が言っていく中で、社会教育として、あって当然なんだけれども、子どもの育ちを考えたときには子どもを主にした育ちのあり方というものがあるので、その目線も大切にしましょうということをお伝えし、学校の教職員や地域の方々とそういう教育観もあるんだということを理解してもらいながら、その子どもの育ちを多面的に見ていく、その子どもを真ん中に、子どもを主体とした、権利の主体としての子どもが育つということを社会教育の視点、サードプレイスの視点が入っていくことで、めざす子ども像を作り上げていくときにもプラスの影響があると思うので、関係なくはない。

(委員) 地域でめざす子ども像があって、家庭で公民館活動であつたりとか居場所であつたりとかを社会教育的な立場から支えていただくというのがいいのかなと思う。

(議長) そうするとめざす子ども像ということと合わない。

「めざす」という言葉を提示するのは駄目だろうか。

今ある子どもをスタートにするということを、なりたい自分って何というところから始めるのか。

そもそもめざす子ども像という設定をすること自体が議論にならないのか。

(委員) 社会教育では、あまりめざす子ども像というのが馴染まないという感じはしていて、学校ではあるということは、やっとわかってきた感じだ。

(議長) しかし、それがないと地域教育は進まない。学校とは違う。

オールマイティーではないけれども、私的には子どもの社会教育としては絶対必要になる。突破口として、それがオールマイティーかということオールマイティーではない。引っ張りすぎるみたいなことで、引っ張ることは社会教育とは違うだろうと、それは分かる。でも地域教育をしている人、青少年教育をやっている人はいるわけで、学校外教育をやっているのはいくらでもいる。スポーツも含めて。学校外教育をしていたら、こんなふうにしたいみたいというものは持っている。そこは学校と違って。学校は異動がある。そこをまず指摘している。

そういう意味でめざす子ども像を熟議して、明らかにしようという感じ。

(委員) 何か熟議していると、おそらくだが地域の大人は子どもが育つために、子どもが育つ環境づくりのために、よい地域にしていこうみたいな話になって、地域づくりと学校運営協議会が一緒にやるみたいな感じ。

(議長) 実際、今のような議論になったら、やはり受け皿っているよねみたいな話になる。取りあえずコミュニティ・スクールにどう関わるのかという話なので、そのプロセスでこれでははまらない子どももいるという話があったときに、それをどこでどう対応するのか。

はまっているときもあれば、はまらないときもあるという話か。

(委員) はまっていなくても、そういう場で楽しめて、また違う自分でいられたりとか、皆さんが別に会社に適応出来て職場に行っているけど、仕事帰りにお酒を飲みに行く居酒屋みたいなもの。子どものもう一つの居場所があるというようなこと。

(議長) 要は、子どもは、教室の顔と学童の顔とは違うという話だ。

(委員) 先ほど、議長が提案された子ども像を明らかにした上で、2番のところで教育環境の醸成を社会教育の立場として協力して行きますというような内容が入る。

(議長) 構成としては後ろかなと思う。どこか補論的に入れるか。少し、読み物としてわかりにくくなるという気がする。少し工夫して入れていきたいと思う。

時間が押しているが、社会教育の関わり方の2番、3番、4番。

この審議報告については、出来れば来年度に教育委員会へ報告したり、校長会とか教頭会でも報告させていただいたり、公民館長会でも報告させてもらったりというようなものになればいいなという研修会のツールになればいいなという狙いでもあるが、副議長、全体的にどうだろうか。

(副議長) 委員のおっしゃることは、よくわかるけれども、全体の書き方においては、3の社会教育の関わり方ということで、それに則した書き方をされているので、私はこのままの方がいいという考えである。具体的にどういう面を注意しないといけないかは、議長がおっしゃったように補論で追記して、そういう面については注意しましょうという形で記載した方がいいかなと思う。

全体の各セクションの中では、これは非常にふわっとしている部分であると思う。

(議長) 公民館はどうだろう。課長どうだろう。

(事務局) 公民館は所管していないので、言いようがないが、おそらくできないだろうという思いはある。

(議長) コーディネーター、推進員が公民館で少し活動された方がいたと思う。推進員で公民館の活動をされている方は居てるだろう。



(部長) 公民館の課題というのは、土日が従前から活用できていないというところがあって、子どもたちが来るとしたら、時間外であったり、放課後であったりとか、土日に何かあればということになるが、川西市の場合、公民館が行政センターと一体的に運営していて、月曜日から金曜日に職員を張り付けている状態なので、土日が動きづらいというところがあるので、制約というのが邪魔になるのかなという思いを担当部長としては思っている。

(議長) 部活動の地域展開はどうなっていくのか。公民館との関わりという面ではどうだろう。

(担当課長) ある地区では、公民館で地域クラブとして茶道教室もされている。

(議長) サークルは中学生を取り込むような営業はされているのか。

(担当課長) 見る限りにおいては、こんな講座を開いているから来てとか、クラブをしているので中学生に来てというようなことはないと思う。

(議長) 個々ではあるが、館としてやっていくというのはない。営業にいくというようなものはないか。日常的に公民館が中学生の同好サークルを作ったらいいのと思う。公民館活性部とか。もしくは、公民館まつりの MC を中学生がすればいい。公民館として、戦略的に部活動だけでなく、中学生を取り込む、せっかく 1 校 1 館あるのだから。

(副議長) 色々な講演やシンポジウムを聞いていると、建屋だけを独立させるのではなく、公民館が培ってきた機能を学校と連携できないかということで、何も公民館の館がなくても、その機能を学校の時間帯の中で公民館で行っている陶芸教室などを入れているところがある。その辺を柔軟に考えれば、公民館だから時間がどうのこうののではなく、公民館の機能の一部を学校の空き教室でというのをされている館がある。それが裾野を広げているのかなと思う。

(議長) やはり公民館が営業に行かないといけない。子どもたちが高校生、大学生になって縦の繋がりができる。

東谷中学校では公民館との連携はどうだろう。

(委員) 明らかに文化祭なんかをするときは、中学校の方から小学校も一緒に場所も共用しながらということもあるが、そのときに進行のお手伝いをしたり、実際に発表したりという連携は今もできているのかなと思う。

(議長) そこから一歩進むかという話ではあるが。

(委員) 文化部系の活動にはなっていくとは思いますが、なかなか中学生のニーズとマッチングしないところもある。

(部長) 自主的な発想でこの場を使ってもいいよという形で考えることは十分できると思う。場所は、実際空いている場所もあるし、先に部屋を押さえておくことも公民館として主体的にできることなので、何かやってみるという発想で、そこに何かやりたいという子どもがどれだけいるかだ。今、クラブで設定しているのは、こういう部活を提供しますという形でやっていて、それが子どもたちとマッチしていないこともあるだろうということで、じゃあ自分たちで考えてみるみたいなことはあってもよいような気がする。

(議長) やはり、場所って結構大事だと思う。学校でないってことが大事だ。

(委員) まず言うのは、すでに準備もしていただいているが、勉強する場所がほしいと、家に帰ってしまうと、何かいろいろ誘惑があるので勉強ができないので、そういう学習する場があればうれしいよねということ。

(部長) 中心市街地は結構整備されていて、この施設のアステ市民プラザもだし、キセラ川西の2階、3階で皆さん勉強されているというところがあって、年令も特に制限するわけでもない。

(議長) そこまでの思いと仕掛けだと思う。こういうふうにしよとなつて、フッキングしていくみたいな感じだろう。

(委員) 公民館には公民館協議会があるのか。公民館の市民運営委員のようなものはないのか。

(副部長) かつては、公民館も運営協議会があったが、今廃止になって立て付け上は、この社会教育委員の会で具体的に話していくという立て付けになっている。

(委員) 今は、公民館の方は意識されていないので、いきなり公民館が名指しされたみたいな感じになるのかなと思う。

(副部長) 館の連携は、ずっとやっていて、その中で情報交換などをしたりしていて、協議が必要な場合は、この場でしていただくような感じ。参考までに、担当者レベルでの集まりもやっていて、9館の連携する仕組みはできている。

(議長) それは、月1回ぐらいで行っているのか。

(副部長) 月1回、行っている。

(議長) 頻繁にある。

(部長) 館長会議には私も出席している。

(議長) そこに、社会教育委員なので、私たちが出席してもいい。

最後に社会教育人材の育成とネットワーク化を進めるということで、本市では教育保育課が進めてくれているが、担当から何かないか。やはり、人材のネットワークが川西の財産で伸ばしていかないといけない資源だがどうだろう。

(担当課長) コーディネーターの役割がたいへん大きいと思っているところだ。

(議長) 研修会はどのような形でされているのか。

(担当主査) 兵庫県でも市でも呼びかけて行っている。動画配信なども行っている。

(議長) 推進員と支援員は、今何名か。

(担当主査) 30 人。

(議長) そこをマックスと見るかだが、その他の人たちをどう広げていくか。研修をどうするか。その人たちとのネットワークをどうするか。30 人はできているので、そこからの話だと思う。

やはり、1 番の「めざす子ども像を明らかにする」が重かったですが、これが肝心なところなので、文章を練り直して、事前にお配りするので検討していただければと思う。

今回は、この柱立てで文章を練り直して出ささせていただき、議論したものを私と副議長と事務局で引き取らせていただき、責任校了という形でさせていただく。当然、完成版は事前に委員の皆さんにみていただくが、協議の場合は次回が最終になるので、そのつもりで会議に臨んでいただきたいと思う。

では、その他について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 阪神北地区社会教育委員協議会の第 2 回研修会だが、年明けの 2 月 4 日水曜日に予定していると会長である猪名川町から聞いている。正式な案内はまだであるが予定していただければと思う。正式な案内が届けば、お知らせさせていただく。

次に、令和 8 年度の全国社会教育研究大会大阪大会が大阪府で開催される。その研究大会の分科会への発表を兵庫県の一地区が担うことになっており、その地区として阪神北地区社会教育委員協議会にお願いしたいと兵庫県から阪神北地区社会教育委員協議会会長の猪名川町に通知があった。現在、阪神北地区社会教育委員協議会において、兵庫県からの依頼を受けるかどうかを書面決議を実施している。おそらく阪神北地区社会教育委員協議会の方でお受けすることになり、川西市もその発表の一部を担うことになるのではなかろうかと思う。これも、未だ正式ではないが、委員の皆様にお知らせする。

また、次回の川西市社会教育委員の会の開催日程であるが、3 月頃を目処に会議を開催させていただければと思っている。事前に日程調整をさせていただき、日を決定したいと思っているので、よろしくお願いします。

審議報告(案)については、本日の委員の意見をもとに、修正し最終の案として改めてお示しするので、よろしくお願いします。

次回が最後の会議となり、教育委員会で提出できるよう協力をお願いします。

(議長) ほか、委員の方からも何かないか。

(委員) 部活動のことで、川西市は来年度から本格的に進めていくという、各自治体に比べて先駆けて進んでいるところではあるが、整備が確立していない部分もあると話もされ、市民から話を聞くと受け皿がどうなるのかなど、不安な状況であると聞いている。

市の方針として決まって進んでいかざるをえないところも否めないと思っているが、現実的なところで社会教育の行政の立場から把握、確認等をしていただき、その状況については社会教育委員の中でも確認し合っていきたいと思うので、情報を共有していただければと思う。

(議長) それでは、令和 7 年度第 2 回川西市社会教育委員の会を終了する。